

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名

大阪府

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	河内長野市立長野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	4	4	5	4	4	4	3	28	43
児童数	159	143	175	140	144	122	11	894	

研究の概要

1. 研究主題

「少人数授業による基礎・基本の確実な定着と個に応じた教育の推進」
- 算数科におけるひとりひとりを大切にしたい指導法のあり方 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・1～6年生の算数科において実施する。
- ・2～6年生の指導形態は、担任と加配教員により、学級を習熟度別に少人数に編成したきめ細かな指導を行う。
- ・1年生は担任と副担任により、チームティーチングによるきめ細かな指導を行う。
- ・算数科は、各学年の指導内容の積み重ねが欠かせない教科であるので、全学年で取り組むことによりその手だてを研究できると考える。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 少人数授業による基礎・基本の確実な定着と個に応じた教育の推進</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から6年生まで通して指導を行うことにより、各学年におけるつまずきの程度が明らかとなり、その手だてを研究できると考える。 ・年度初めに算数(数と計算の領域)の学力実態調査を行い、つまずきに対する手だてを研究し、効果的な授業形態や方法の工夫に生かす。 ・算数科のCRTテストを年度末に実施し、学習到達度を分析する。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生・・・チームティーチングによるきめ細かな指導を行う。 ・2・3年生・・・授業の中で一斉指導と習熟度別指導を組み合わせる。 ・4～6年生・・・基本的に習熟度別に編成した少人数指導を行う。 ・全学年で取り組むことにより、算数だけでなく学習における基礎・基本が明確になる。 ・算数科における系統立った診断テストを行い、学習到達度を分析し効果的な指導に生かしていく。また、指導と評価の一体化の観点から評価システムの研究を進める。
--------	--

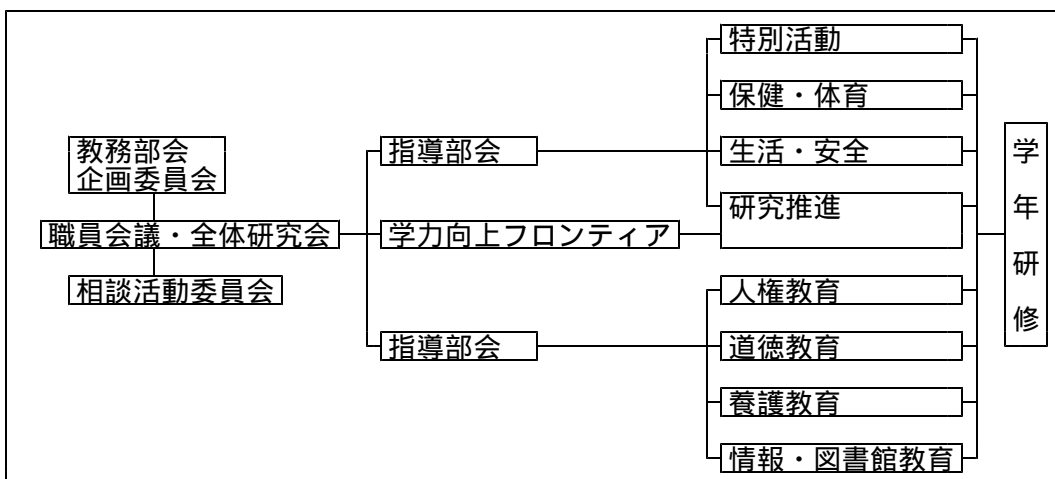
平成16年度	<p>テーマ 少人数授業による基礎・基本の確実な定着と個に応じた教育の推進</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着が図りにくい学年が明確になったので、取り組みを進める学年を絞って習熟度別の少人数指導を行う。 ・年度初めに算数(数と計算の領域)の学力実態調査を行い、つまずきに対する手だてを研究し、効果的な授業形態や方法の工夫に生かす。
--------	---

- ・算数科のCRTテストを年度末に実施し、学習到達度を分析する。

研究の内容・方法

- ・3・4・5年生の全学級で算数科における習熟度別に編成した少人数指導を行う。
- ・算数科における系統立った診断テストを行い、学習到達度を分析し効果的な指導に生かしていく。また、指導と評価の一体化の観点から評価システムの研究を進める。

(3) 研究推進体制

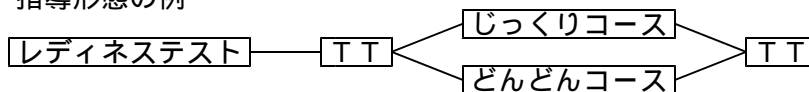


平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

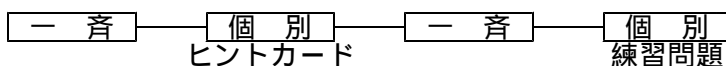
4月の診断テストの結果、1・2年生の学習内容の習得が不十分、計算が正確でも時間がかかる、数の仕組みの習得が不十分、集中力に欠け、学習の準備・態度ができていない、問題を読みとる力の不足等が判明する。については、計算タイムを設定し習熟を図る。については、少人数授業の中で教師が意識しきめ細かく指導する。については、本校における教育の基礎・基本を教職員で共通理解し、縦のつながりを考えて指導を充実する。習熟度別の編成にあたっては、児童の自己選択としているので、単元ごとに人数に差はあるが、自分の学習深度にあったコースを選ぶことができるようになっている。

指導形態の例



* コース選択は、子どもの意志・担任のアドバイス・振り返り問題の結果によって決定する。

指導方法の例



習熟度別の少人数による指導の結果、8割以上の児童が感じていることは、「難しかったことがわかるようになって、楽しくなってきた」「たくさん問題ができる(特に高学年)」「質問しやすい」「発表しやすい」「多く指名してもらえる」「自分で選択できる」「落ち着く」「集中できる」などである。

また、理解に時間を要する児童のグループを少人数に編成することにより、進度にあったきめ細かな指導ができ、当該児童に顕著な学力向上が見られた。

2. 今後の課題

- * 児童の実態を把握しその実態にあった本校なりの授業形態や指導方法を工夫する。
- * 個に応じた指導のための教材の開発を進める。
- * 評価を生かした指導の改善を進める。
- * 個人のデータを日々の授業の中で効果的に活用する方法を工夫する。
- * 中学校と連携し、効果的な指導方法を模索する。

学力等把握のための学校としての取組

- ・ 診断テスト（数と計算）・・・4月当初実施（既習領域の習熟を把握するため）
- ・ CRTテスト（算数科）・・・2月下旬実施（算数科全般における習熟の程度を把握するため）
- ・ 計算タイム・・・毎日実施（四則計算の習熟を図り、その習熟の程度を把握するため）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

* 研究会・研修会

会の名称	日時	対象	目的等
全体研修会・討議会	5月12日	市内少人数担当教員	大谷女子大学西川教授を招いて、少人数指導のあり方について研修する。
全体研修会・討議会	8月28日	市内少人数担当教員	
公開授業・フロンティアスクール地区研修会	11月20日	地区少人数担当教員	3・4・5年生の授業を公開し、研究協議を行う。
公開授業・全体研修会	2月27日	市内少人数担当教員	2年生の授業を公開し、西川教授を招いて、研修する。

* 研究成果の普及

- ・ 本校のホームページに学力向上フロンティア事業の項目を開設するとともに、校長室だよりのページに於いてもフロンティア事業の進捗状況を随時掲載している。
- ・ 校長室だよりを保護者・校区の地域に配布し、少人数授業について理解を得るようにしている。
- ・ 授業参観・フリー参観を利用し、少人数授業を保護者に公開する。
- ・ 学校教育自己診断のアンケートに、少人数授業について意見を求める項目を設定する。

~~~~~  
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
 13～18学級                       19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
 一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
 生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
 体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無